

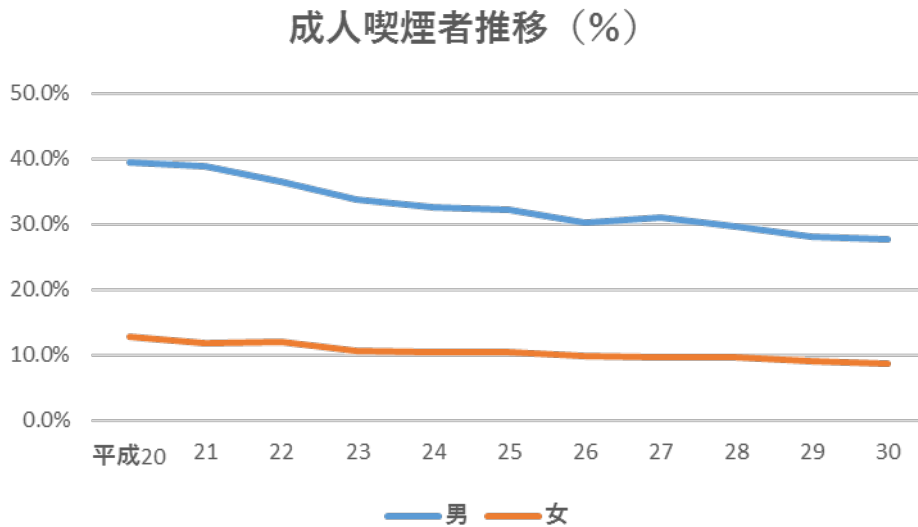
喫煙に関する調査

中本 優太郎 (文教大学情報学部メディア表現学科)

1. 序論

近年、受動喫煙への対策として健康増進法の一部を改正する法律が成立したことで、喫煙をできる場所が少なくなっている。この法律は2020年4月に施行され、違反者へは指導、場合によっては罰則が課される。これは、たばこの有害性が世間に広く知られたことが大きい。また、たばこの値上げや健康への懸念などの要因によって、日本たばこ産業株式会社によれば、喫煙者の数は減少傾向にある（厚生労働省の最新たばこ情報 2020）。前述した法律の施行により、さらに拍車がかかる見込みだ。

図表-1 成人喫煙者数推移



国立がん研究センターによればたばこは、肺、胃、膵臓などの癌や脳卒中、結核、呼吸機能低下など様々な健康被害のリスクを向上させることがわかっている。そのため、たばこへのイメージは必然的に悪いものとなる。それに伴い、喫煙者へのイメージも変化しているのではないだろうか。SNS やインターネットの掲示板を見ると、喫煙者へ偏見の目を向けている人を見かけることがある。たばこを嗜好品として楽しむ人物の人間性とたばこの有害性には、何の因果関係はないと考えられるが、喫煙者への偏見は存在する。しかし、たばこを吸うことによって倫理観や道徳観が損なわれるという確証はない。喫煙者へ偏見の要因としては、受動喫煙による健康被害によるものが強いと考えた。東京都福祉保健局の受動喫煙に関する調査では、受

動喫煙を受けた際の感想として「迷惑に思った」という回答が最多である。(東京都福祉保健局 受動喫煙に関する都民の意識調査 2016)

そのため、喫煙者とたばこ、双方に対するイメージを調査し、比較する。また、その原因を調査する。不随して、喫煙者への悪いイメージがあるのだとするならば、それによって私生活に影響はあるのか、「人間関係」という点に着目し検証する。そして、喫煙者へのイメージの原因を探りやすくするためいくつかの仮説を立てた。その仮説を下記に示す。

「喫煙者とたばこのイメージは異なるのではないか」

「喫煙の有無によって人間関係に影響はないと考えられる」

「喫煙者へのイメージは喫煙経験の有無によって異なるのではないだろうか」

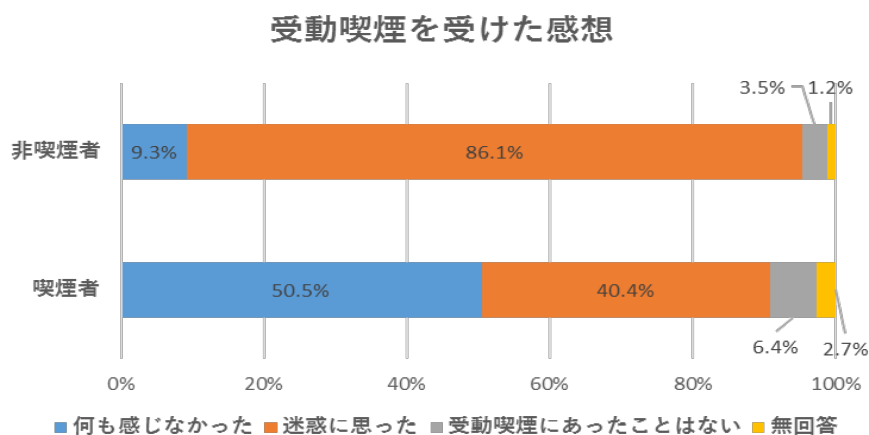
「喫煙者へのイメージはこれまでのたばこことに関わりによって異なるのではないだろうか」

「喫煙者へのイメージは現在のたばこことに関わりによって異なるのではないだろうか」

「喫煙者とたばこへのイメージを同一化する人には、パーソナリティ、課題の解決方法という点の他、たばこへの知識が多いほど有害性について認識していると考えられるため、たばこの有害性への理解度という観点で共通点があると考えられる」

私自身が喫煙者であるため、肩身の狭い思いをすることが多々ある。そこで、喫煙者を取り巻く現状とその原因を知りたいと考えたことが、調査を始めたきっかけである。

図表-2 受動喫煙を受けた感想



図表-2 から読み取れるように、喫煙者、非喫煙者によって、受動喫煙を受けた際の感じ方が異なる。そのため、喫煙経験、たばこことに関わりは、喫煙者へのイメージ醸成に影響していると考えられる。

喫煙者の人間性とたばこの有害性に因果関係はないが、イメージを同一化している人は一定数いると考えられる。「相関があると思ってしまうこと、錯覚による相関」(Bell Curve 統計 Web 2017)、すなわち「錯誤相関」という点に着目した。錯誤相関の例として、「テストのときに限ってペンを忘れてしまう」というようなものが挙げられる。錯誤相関をする人には、パーソナリティに共通点があるとされている (BELCY ステレオタイプの例 10 選 2019)。

そこで、錯誤相関を起こす人の特徴を調べ、それを参考に性格的特徴、課題の解決方法をい

くつか質問項目へ組み込み、調査をする。また、たばこの有害性への理解度によって喫煙者へのイメージが変化すると考え、質問する。

喫煙者には偏見の目が向けられているのか。また、偏見の有無に関わらず、喫煙者へのイメージはどのような要因によって醸成されているのかを知ることで、喫煙者と非喫煙者双方の溝を明確化し、偏見や対立といった隔たりを取り払う方法を模索していきたい。ただ一方的に喫煙者を排除するのではなく、双方の考えをくみ取った分煙政策を進めていくべきだ。この調査が、喫煙者が締め出されているこの状況に一石を投じるものとなれば幸いである。

2. 調査方法

2-1 調査研究の経緯

- 4~7月 調査テーマ討論
- 8~10月 予備調査実施・分析
- 11月 調査票作成
- 11~12月 本調査実施
- 1~2月 集計・分析、報告書作成

2-2. 調査の概要

2-2-1. 調査の意図

大学生を対象に、喫煙者・たばこへのイメージについて調査する

2-2-2. 調査対象者と方法

調査対象

- 文教大学湘南キャンパス1~4年生
- 2019年度秋学期情報学部の授業2クラスの受講生
- 文教大学湘南校舎保健センター主体のイベント参加者

調査期間

2019年11月19日~12月6日

配布数

- クラスA：配布数100 有効回答数57（回収率57%）
- クラスB：配布数120 有効回答数80（回収率66.7%）
- 保険センター主催イベント：設置数50 有効回答数19（回収率38%）
- 合計156 （回収率57.8%）

調査方法

質問紙による自記式の集合調査

主に喫煙者の回答を確保するため保健センターのキャンペーンにおける留置調査法

2-3. 主な質問項目

- ・現在の喫煙状況について
- ・これまでの喫煙経験について
- ・現在のたばことの関係について
- ・これまでのたばことの関係について
- ・喫煙者へのイメージ
- ・たばこへのイメージ
- ・たばこが体に与える健康被害への理解
- ・回答者の性格的特徴について

3. 調査結果

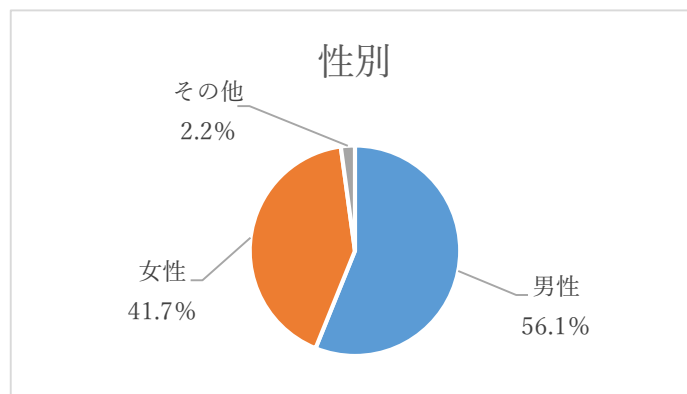
3-1. 調査対象者について

回答者 156 名の内訳として、「男性」が 56.1%、「女性」が 41.7%、「その他」が 2.2%であり、男性の割合がわずかに高い結果となった。

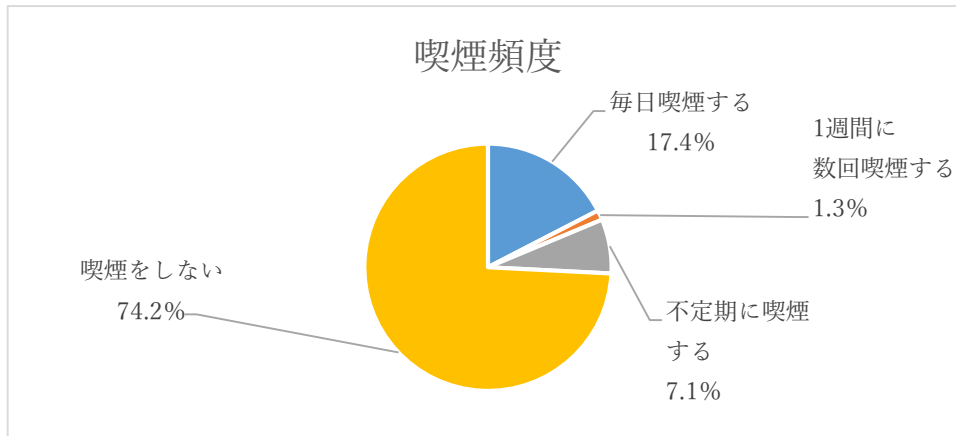
前提として、本調査は紙たばこのみをたばことして取り扱い、現在の喫煙状況について尋ねたところ、「毎日喫煙する」が 17.4%、「一週間に数回」が 1.3%、「不定期に喫煙する」が 7.1%、「喫煙をしない」が 74.2%となった。全体としては、喫煙者が 25.8%となった。

また、「不定期に喫煙する」と回答した人の喫煙する場面については、「飲み会や食事会」が 36.4%、「イベント事があるとき」が 9.1%、「いやなことがあったとき」が 18.2%、「何か特定の行動をするとき」が 9.1%、「周囲の友人が喫煙するとき」が 27.3%であった。多くの場合、飲み会・食事会の場面で喫煙することが多い。

図表-3 性別 (n=156)



図表-4 喫煙頻度 (n=156)



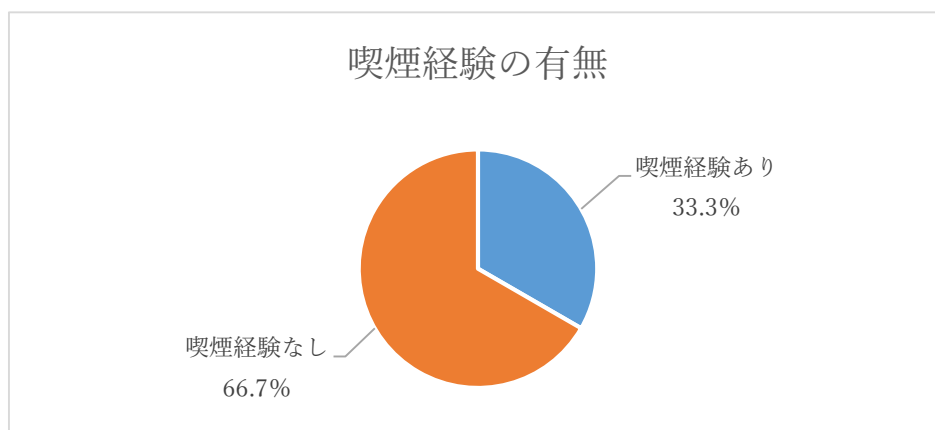
3-2. これまでの喫煙経験について

これまで喫煙経験があるか尋ねたところ、「はい」と回答したのは33.3%、「いいえ」と回答したのは「66.7」%であった。

喫煙経験がある回答者に喫煙の継続について尋ねると、「現在まで継続して喫煙している」と回答したのは56.3%、「過去に継続して喫煙していた期間があったが今は喫煙していない」は12.5%、「たばこを吸ったことはあるが継続して喫煙はしていない」が31.3%であった。そのため、喫煙経験の有無の回答者度数と照らし合わせると、喫煙経験がある回答者のうち42.8%が現在は喫煙をしていないことがわかった。

「現在まで継続して喫煙している」と回答した回答者に対して禁煙期間を設けたことがあるか尋ねたところ、「はい」が48.1%、「いいえ」が51.9%となった。喫煙している回答者の半数近くが、禁煙を試みたことがあるとわかった。

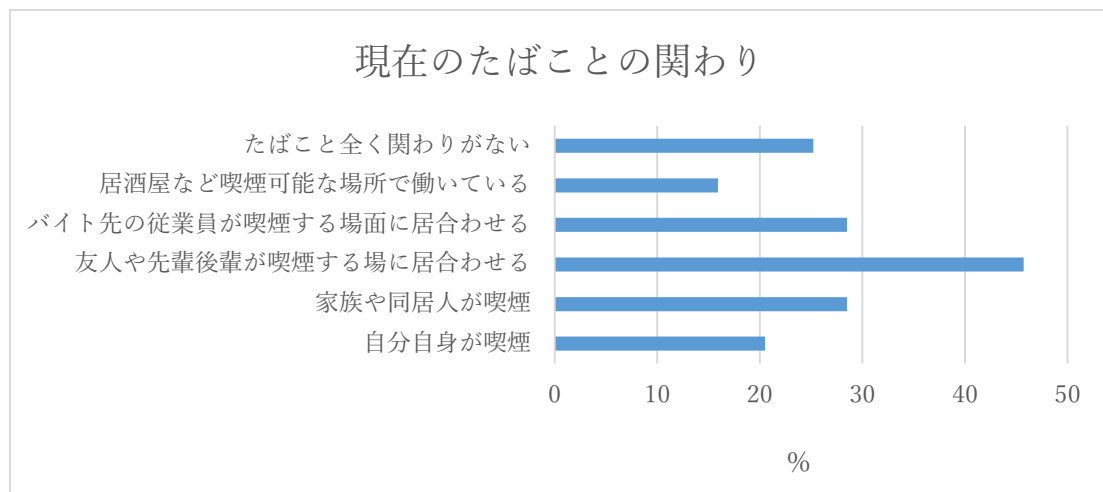
図表-5 喫煙経験の有無 (n=156)



3-3. 現在のたばことの関係について

現在のたばことの関係性を多重回答で答えてもらった。その結果、「自分自身が喫煙する」と回答したのは20.5%、「家族や同居人が喫煙する」が28.5%、「友人や先輩後輩が喫煙する場に居合わせることもある」が45.7%、「バイト先の従業員が喫煙する場に居合わせることもある」が28.5%、「居酒屋など喫煙可能な場所で働いている」が15.9%、「たばこと全く関係がない」が25.2%であった。この結果から、喫煙をしていなくても、他者が喫煙する場面に居合わせることが多い、と言える。また、多くの人々が、喫煙をしていなくてもいずれかの形でたばこと関わっていることがわかった。

図表-6 現在のたばことの関係性 (n=156)

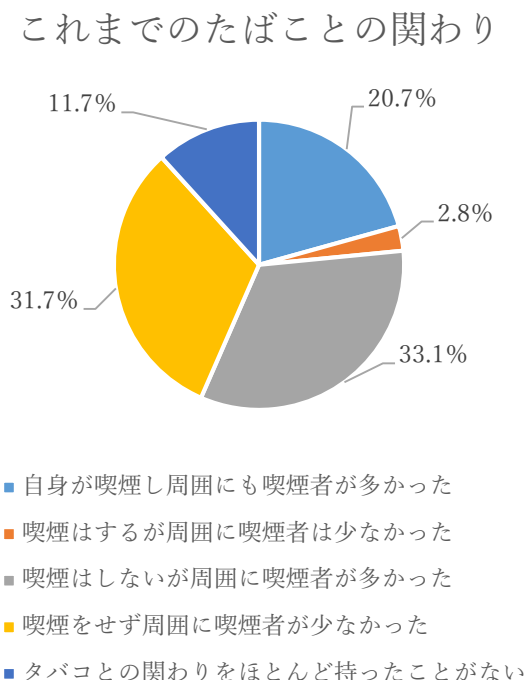


3-4. これまでのたばことの関係性について

これまでのたばことの関係性を質問した。その結果、「自身が喫煙し周囲にも喫煙者が多かった」と回答したのは20.7%、「喫煙はするが周囲に喫煙者は少なかった」は2.8%、「喫煙はしないが周囲に喫煙者が多かった」は33.1%、「喫煙をせず周囲に喫煙者が少なかった」が31.7%、「たばことの関係性をほとんど持ったことがない」が11.7%であった。

このことから、喫煙の有無に関わらず、周囲に喫煙者がいる環境で過ごしていた回答者が多いことがわかる。

図表-7 これまでのたばこことの関わり (n=156)



3-5 喫煙者へのイメージについて

「喫煙者へのイメージ」「ドラマやアニメなどのたばこのシーンを見て思うこと」「知らない人が喫煙をしたらどう感じるか」「家族や友人が目の前で喫煙したらどう感じるか」「喫煙者のことのが好きか」について質問した。

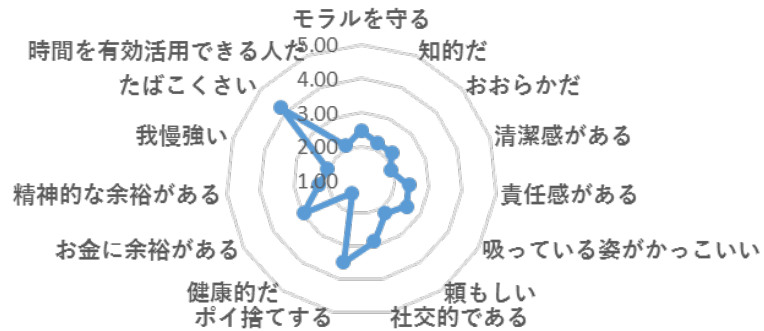
喫煙者へのイメージについて、質問項目ごとに「よく当てはまる」から「全く当てはまらない」の5段階を設置し尋ねた。図表は、その結果を示したものである。

好意的なイメージである「モラルを守る」「知的だ」「おおらかだ」「清潔感がある」「責任感がある」「吸っている姿がかっこいい」「頼もしい」「社会的である」「健康的だ」「お金に余裕がある」「精神的な余裕がある」「我慢強い」「時間を有効活用できる人だ」の13項目は、いずれも平均値が3を下回っている。また、「ポイ捨てする」は3.47、「たばこくさい」は4.19である。

このことから、多くの回答者は、喫煙者に対して好意的なイメージを持っていないことがわかる。

図表-8 喫煙者へのイメージ (n=156)

喫煙者へのイメージ



また、喫煙者へのイメージが 15 項目と多くわかりづらいため、因子分析を行いグループに分ける。

第 1 因子は、「時間を有効活用できる」「知的だ」「モラルを守る」などの 9 項目で構成されているため、「落ち着いている」因子とした。

第 2 因子は、「社会的である」「吸っている姿がかっこいい」「頼もしい」「責任感がある」の 4 項目で構成されているため「魅力的」因子とした。

第 3 因子は、「たばこくさい」「ポイ捨てる」の 2 項目で構成されているため「マナーが悪い」因子とした。

これにより、喫煙者へのイメージは落ち着いているか、魅力的であるか、マナーが悪いかの 3 要素をもとに形成されていることがわかった。

図表-9 喫煙者へのイメージのグループ分け (n=156)

	成分		
	1	2	3
時間を有効活用できる人だ	.793	.118	.044
我慢強い	.685	.353	-.056
精神的な余裕がある	.683	.275	.060
清潔感がある	.677	.422	-.171
知的だ	.605	.492	.056
おおらかだ	.576	.514	-.030
健康的だ	.543	.303	-.391
お金に余裕がある	.540	-.050	.539
モラルを守る	.539	.435	-.079
社交的である	.186	.755	.152
吸っている姿がかっこいい	.142	.752	-.061
頼もしい	.363	.742	-.087
責任感がある	.339	.716	-.012
たばこくさい	-.182	.087	.772
ポイ捨てする	.046	-.024	.698
固有値	6.21	1.60	1.13
寄与率	26.23	22.60	10.73
累積寄与率			59.558

次に、ドラマやアニメなどのたばこのシーンを見てどのように思うか、複数回答形式で回答してもらった。質問項目は、予備調査で同様の質問を自由回答方式で設置したため、その解答をもとに作成した。

回答者の多くが喫煙者へ好意的なイメージを持っていない一方、「かっこいい」が23.4%、「演出の一環なので必要だ」が25.3%、「キャラクターのイメージ醸成に必要」が26.8という

結果となり、創作作品における喫煙シーンを必要と考えている回答者が多いことがわかった。

図表-10 ドラマやアニメのたばこシーンについてどう思うか (n=156)

	どう思うか	当てはまる (%)
ドラマやアニメのたばこのシーンに対してどのように思うか	かっこいい	23.4%
	演出の一環なので必要だ	25.3%
	キャラクターのイメージ醸成に必要	26.8%
	未成年への影響が懸念される	3.7%
	見ると吸いたくなる	4.5%
	見ると不愉快に思う	1.9%
	喫煙シーンの必要性がわからない	1.9%
	何も思わない	12.6%

知らない人が目の前で喫煙をしたらどのように感じるか、多重回答形式で回答してもらった。その結果、「匂いが気になる」が21.8%、「その場から離れたくなる」が19.8%、「たばこを消してほしいと感じる」が10.7%、「自分の健康が心配になる」が13.4%、「なんとなく不快を感じる」が15.8%となり、この5項目の割合が高かった。

したがって、多くの回答者が知らない人が目の前で喫煙した際、不愉快に感じるということがわかった。

図表-11 知らない人が目の前で喫煙したらどう感じるか (n=156)

どう感じるか	当てはまる (%)
匂いが気になる	21.8%
その場から離れたくなる	19.8%
たばこを消してほしいと感じる	10.7%
自分の健康が心配になる	13.4%
喫煙者の健康が心配になる	1.7%
なんとなく不快を感じる	15.8%
その他	1.7%
何も感じない	15.1%

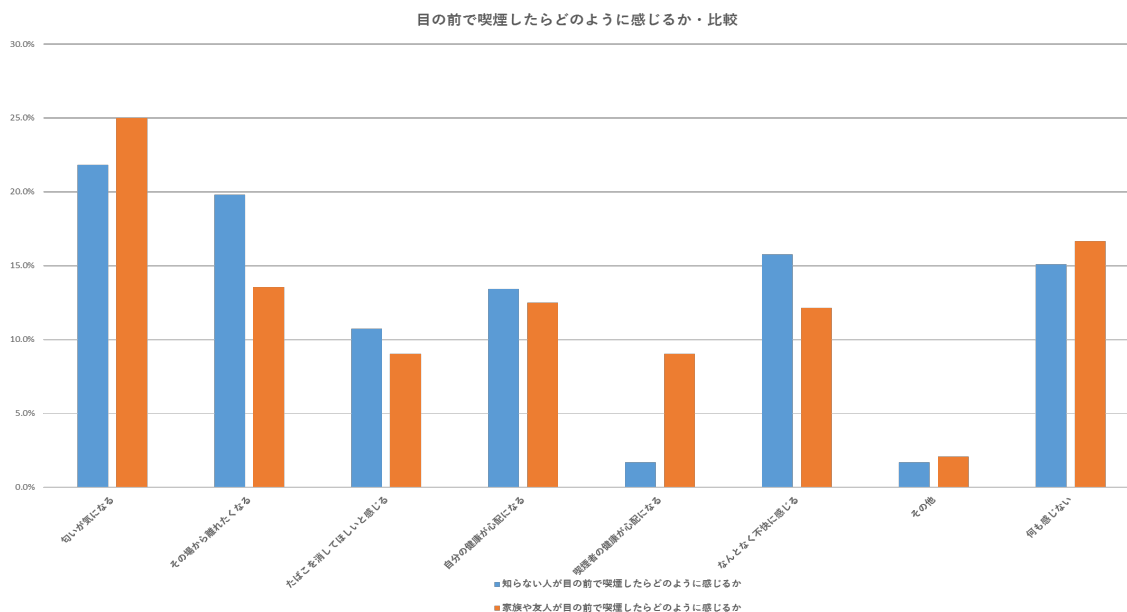
次に、家族や友人が目の前で喫煙したらどのように感じるか、多重回答形式で回答してもらった。その結果、「匂いが気になる」が25.0%、「その場から離れたくなる」が13.5%、「自分の健康が心配になる」が12.5%、「なんとなく不快に感じる」が12.2%で、この4項目の割合が高かった。

図表-12 家族や友人が目の前で喫煙したらどう感じるか (n=156)

どう感じるか	当てはまる (%)
匂いが気になる	25.0%
その場から離れたくなる	13.5%
たばこを消してほしいと感じる	9.0%
自分の健康が心配になる	12.5%
喫煙者の健康が心配になる	9.0%
なんとなく不快に感じる	12.2%
その他	2.1%
何も感じない	16.7%

図表-13は、目の前で喫煙されたときどのように感じるか、「知らない人」と「家族・友人」に分け比較した結果である。前述した知らない人が目の前で喫煙したときの感想と比較すると、不愉快に感じる回答者はやや減少していることがわかる。

図表-13 目の前で喫煙されたときの感想比較 (n=156)



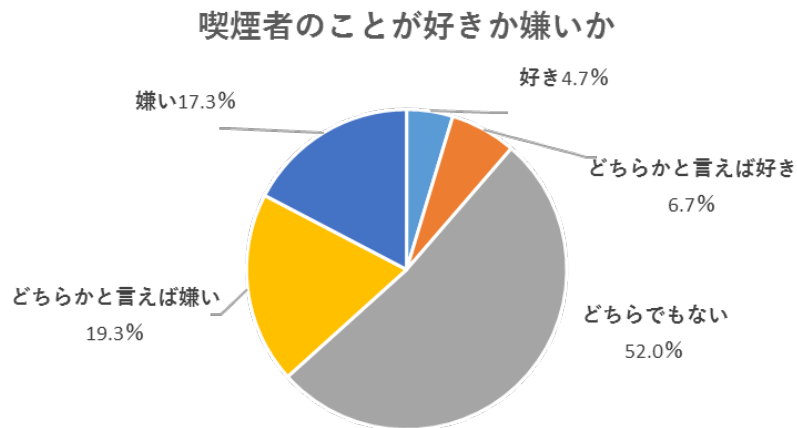
喫煙者のことが好きか嫌いかを、「好き」から「嫌い」までの5項目で質問した。

その結果、「好き」が4.7%、「どちらかと言えば好き」が6.7%、「どちらでもない」が52.0%、「どちらかと言えば嫌い」が19.3%、「嫌い」が17.3%となったため、「好き」が11.4%、「どちらでもない」が52.0%、「嫌い」が36.6%となる。

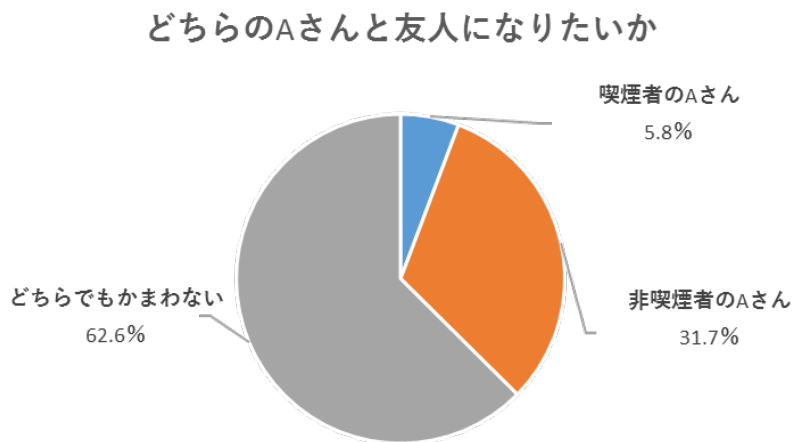
約半分の回答者が喫煙者を好きでも嫌いでもないことが分かった。その次に喫煙者のことが嫌いな回答者が多く、喫煙者のことが好きな回答者が少ない結果となった。

また、上記の調査に付随して、仮に「喫煙者のAさん」と「非喫煙者のAさん」の二人がいた場合、どちらと友人になりたいか質問した。その結果、「喫煙者のAさん」と回答したのは5.8%、「非喫煙者のAさん」は31.7%、「どちらでもかまわない」は62.6%であった。多くの回答者がどちらでもかまわないと考えており、その次に非喫煙者と友人になりたいと考えている回答者が多かった。

図表-14 喫煙者のことが好きか嫌いか (n=156)



図表-15 どちらのAさんと友人になりたいか (n=156)



結果として、喫煙者は悪いイメージを抱かれている一方、半数以上の回答者が、喫煙者を嫌っているというわけではなかった。そのため、交友関係においては、喫煙の有無が作用していないと言える。

3-6 たばこへのイメージについて

たばこへのイメージを、質問項目ごとに「よく当てはまる」から「全く当てはまらない」の5段階を設置し尋ねた。図表は、その結果を示したものである。

好意的なイメージである「おいしい」「香りが良い」「精神的にリラックスできる」「いつでもやめることができるものだ」「健康に良い」「人間関係に良い影響が出る」「火災の危険がない」「モラルが守られている」「精神的に良い影響が出る」「カッコいい」「他者に迷惑がかからない」の11項目は、いずれも平均値が3を下回っている。また、「吸っている時間が無駄だ」は3.21、「吸うことでお金が無くなる」は4.11、「吸い殻の処理が難しい」は3.26、「清潔感がない」は3.49であった。

このことから、多くの回答者はたばこに対して好意的なイメージを持っていないことがわかる。

図表-16 たばこへのイメージ (n=156)

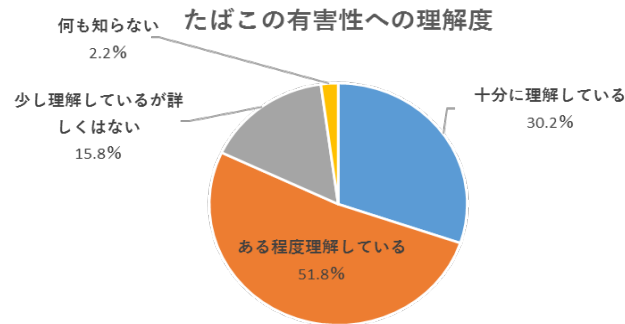


3-7 たばこが体に与える健康被害への理解

回答者がたばこの健康被害についてどの程度理解しているのかを知るため、たばこが人体に及ぼす有害性について、どれほど理解しているかを尋ねた。

その結果、「十分に理解している」と回答したのは30.2%、「ある程度理解している」が51.8%、「少し理解しているが詳しくはない」が15.8%、「何も知らない」と回答したのは2.2%であった。82%の回答者が、たばこの有害性について理解をしているという結果となった。

図表-17 たばこの有害性への理解度 (n=156)



3-8 回答者の性格的特徴について

回答者のパーソナルについて、「性格的特徴」「課題の解決方法」「性別」に分けて尋ねた。性別に関しては「3-1」に記載されているので割愛する。

性格的特徴について、「社交的タイプ」「興奮しやすいタイプ」「内向的タイプ」「冷静でいるタイプ」の4つを挙げ、質問項目ごとに「とても当てはまる」から「全く当てはまらない」までの5段階に分け回答してもらった。その結果、平均値は「社交的タイプ」が2.90、「興奮しやすいタイプ」が2.77、「内向的タイプ」が3.33、「冷静でいるタイプ」が3.31であった。

「内向的タイプ」「冷静でいるタイプ」の平均値が少し高いという結果となった。

図表-18 回答者の性格的特徴 (n=156)



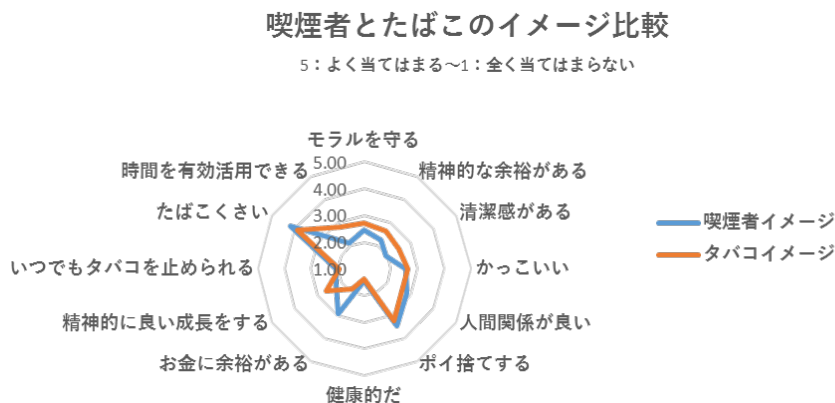
3-9 仮説の検証

ここからは、仮説の検証を行っていく。まず、喫煙者へのイメージと、たばこへのイメージの、対応する質問項目の平均値を比較していく。図表はその結果を示したものである。読み取りやすくするため、一部言葉を置き換えて表示する。

「お金の余裕がある」の質問項目では、たばこが「1.89」、喫煙者が「2.95」となり、大きな差が見られた。一方、その他の質問項目には差が見られなかった。これにより、たばこと喫煙者のイメージが同一化されていることがわかる。そのため、錯誤相関をしている回答者がいることがわかった。

したがって、「喫煙者のイメージはたばことは異なる」という仮説は支持されない。

図表-19 喫煙者とたばこのイメージ比較 (n=156)



これにより、たばこと同様に喫煙者も悪いイメージを抱かれていることがわかった。次に、回答者が持っている喫煙者への悪いイメージが、人間関係に影響しているのかを検証していく。「喫煙者のことが好きか嫌いか」の回答によって「同じ人物Aさんが二人いたとして喫煙者・非喫煙者のどちらと友人になりたいか」という質問の結果に差が見られるのか検証するため、カイ2乗検定を行った。その結果、1%水準で有意な関連が見られた ($X^2 = 56.528, df=8, p < .01$)。

図を喫煙者への好感度別に見ると、喫煙者のことが「好き」「どちらかと言えば好き」の項目では、「喫煙者のAさん」「どちらでもかまわない」を回答した人の割合が「非喫煙者のAさん」と回答した人の割合を大きく上回っている。また、「どちらでもない」の項目においては、「どちらでもかまわない」と回答した人の割合が80.3%となり大多数を占めた。一方、「嫌い」「どちらかと言えば嫌い」の項目では、「喫煙者のAさん」を選択した回答者がおらず、「非喫煙者のAさん」と回答した人の割合が「どちらでもかまわない」と回答した人の割合を、いずれも上回っている。

したがって、たばこが嫌いな人ほど喫煙の有無によって友人を選ぶ、と言える。そのため「喫煙の有無によって人間関係に影響はない」という仮説は支持されなかった。

図表-20 喫煙者が好きか嫌いかとどちらのAさんと友人になりたいかのクロス表 (n=156)

	喫煙者のAさん	非喫煙者のAさん	どちらでもかまわない
好き	3	0	4
	42.9%	0.0%	57.1%
どちらかと言えば好き	2	1	6
	22.2%	11.1%	66.7%
どちらでもない	3	11	57
	4.2%	15.5%	80.3%
どちらかと言えば嫌い	0	17	9
	0.0%	65.4%	34.6%
嫌い	0	14	10
	0.0%	58.3%	41.7%

次に、喫煙経験の有無によって喫煙者へのイメージが変化するのかを検証する。図表 21 はその結果を示したものである。

喫煙経験によって喫煙者へのイメージに影響があるのかを検証するため、対応のない t 検定を行った。その結果、「社会的である」「頼もしい」「吸っている姿がかっこいい」の3項目に有意な差が見られた。

「社会的である」の平均値は、喫煙経験ありが 3.29 (SD=1.17)、喫煙経験なしが 2.65 (SD=1.18) であり、有意な差が見られた ($t(145)=3.08, p<.05$)。

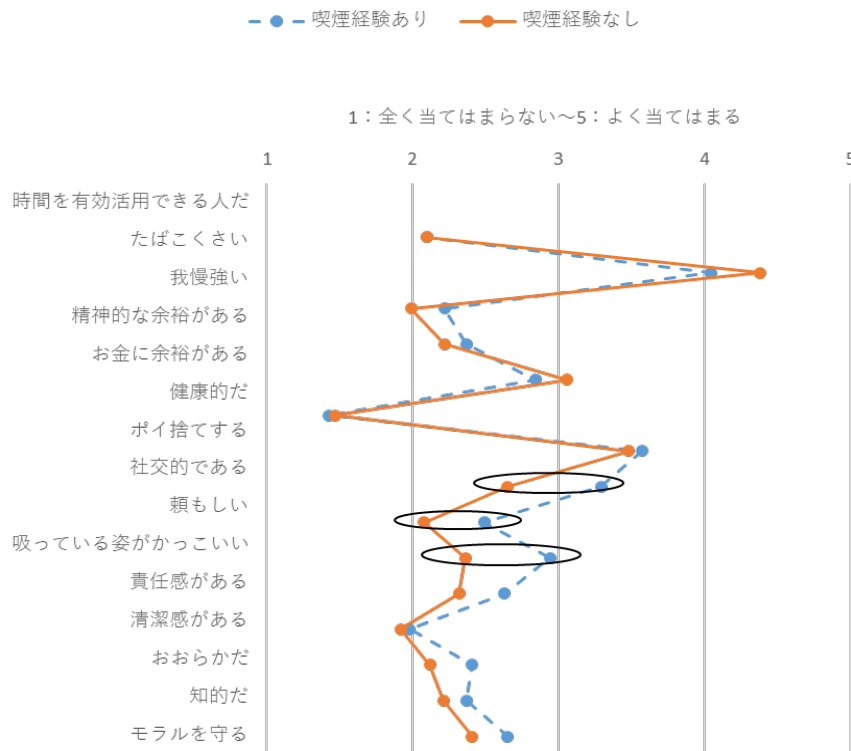
「頼もしい」の平均値は、喫煙経験ありが 2.49 (SD=0.98)、喫煙経験なしが 2.08 (SD=1.02) であり、有意な差が見られた ($t(145)=2.31, p<.05$)。

「吸っている姿がかっこいい」の平均値は、喫煙経験ありが 2.94 (SD=1.16)、喫煙経験なしが 2.36 (SD=1.31) であり、有意な差が見られた ($t(145)=2.63, p<.05$)。

このことから、喫煙経験がある人ほど、喫煙者に対して「社会的」「頼もしい」「吸っている姿がかっこいい」という、好意的なイメージを持っていることがわかった。

したがって、「喫煙経験の有無によって喫煙者へのイメージは異なる」という仮説は支持される。

図表-21 喫煙経験の有無による喫煙者へのイメージ比較 (n=156)



また、喫煙の有無に限らず、これまでのたばこことの関わりや現在のたばこことの関わりで喫煙者へのイメージに影響があるのかを検証した。

まず、これまでのたばこことの関わりによる喫煙者へのイメージ変化があるのかを確認するため、喫煙者へのイメージを従属変数として、これまでのたばこことの関わりの一元配置分散分析を行った。図表 22 はその結果を示したものである。

分散分析の結果、「モラルを守る」の項目に有意な差が見られた ($F(4, 139)=2.51, p<.05$)。

「我慢強い」の項目でも、有意な差が見られた ($F(4, 140)=2.71, p<.05$)。

これにより、これまでのたばこことの関わりが多いほど、喫煙者に対して「モラルを守る」「我慢強い」というイメージを抱いていることがわかった。一方、それ以外の項目には有意差が見られず、「これまでのたばこことの関わりによって喫煙者へのイメージが異なる」という仮説は支持されない。

図表-22 喫煙者へのイメージとこれまでのたばこと関わりの t 検定 (n=156)

	自身が喫煙し周囲にも喫煙者が多かった	喫煙するが周囲に喫煙者は少なかった	喫煙はしないが周囲に喫煙者が多かった	喫煙をせず周囲に喫煙者が少なかった	タバコとの関わりをほとんど持ったことがない	有意確率
モラルを守る	2.63	4.00	2.38	2.41	2.29	P<0.5
知的だ	2.40	3.25	2.13	2.07	2.18	N.S
おおらかだ	2.60	2.50	2.10	2.09	2.06	N.S
清潔感がある	2.07	2.50	1.92	1.78	1.76	N.S
責任感がある	2.63	3.00	2.40	2.33	2.24	N.S
吸っている姿がかっこいい	2.87	2.50	2.63	2.26	2.59	N.S
頼もしい	2.57	2.25	2.31	1.87	2.24	N.S
社交的である	3.33	3.00	2.79	2.89	2.24	N.S
ポイ捨てをする	3.87	4.00	3.31	3.37	3.59	N.S
健康的だ	1.53	1.75	1.35	1.35	1.65	N.S
お金に余裕がある	2.93	3.00	2.94	3.04	2.65	N.S
精神的な余裕がある	2.50	2.25	2.15	2.13	2.12	N.S
我慢強い	2.47	2.50	1.90	1.87	1.94	P<0.5
たばこくさい	4.03	4.00	4.19	4.43	4.35	N.S
時間を有効活用できる人だ	2.30	2.25	2.04	2.11	1.89	N.S

次に、現在のたばこと関わりのによって、喫煙者へのイメージが異なるのか検証する。

まず、現在のたばこと関わりを多重回答形式で答えてもらった (3-3 参照)。

喫煙者へのイメージを従属変数として、グループの平均を比較した。その結果をしめしたものが、図表である。回答したものの平均値を上段、有意確率を下段に記載している。

項目ごとに見ると、「知的だ」「おおらかだ」「責任感がある」「吸っている姿がかっこいい」「頼もしい」「社交的である」「ポイ捨てをする」「我慢強い」の 8 項目に、有意な差が見られた。

回答者のたばこと関わりごとに表を見ると、自分自身が喫煙する回答者は、「おおらかだ」「責任感がある」「吸っている姿がかっこいい」「頼もしい」「社交的である」「我慢強い」の 6 項目が 1%水準で有意であり、喫煙者に良いイメージを抱いている。

バイト先で喫煙場面に居合わせる回答者、喫煙可能な場所で働いている回答者は「社交的である」の項目に 5%水準で有意であり、喫煙者のことを社交的と考えていることがわかった。

たばこと関わりがない回答者は、「知的だ」「おおらかだ」「責任感がある」「ポイ捨てをする」の 4 項目が 5%水準、「吸っている姿がかっこいい」「社交的である」の 2 項目が 1%水準で有意であった。このことから、現在のたばこと関わりによって、喫煙者へのイメージは変化することがわかった。

表-23 を見ると、有意差があった項目の平均値は、現在のたばこと関わりが少なくなるほど低くなる、という傾向にある。例えば、「知的だ」の項目では、自分自身が喫煙する回答者の平均値が「2.48」、たばこと全く関わりがない回答者の平均値は「1.95」と、大きな差がある。このことから、現在たばこと関わりが強い回答者ほど喫煙者に対して良いイメージをもっていることがわかった。

したがって、「現在のたばこと関わりによって喫煙者へのイメージは異なる」という仮説は支持された。

図表-23 喫煙者のイメージと現在のたばこことの関わりのグループ平均比較 (n=156)

	自分自身が喫煙する	家族や同居人が喫煙する	友人や先輩後輩が喫煙する場に居合わせる機会が多い	バイト先の従業員が喫煙する場に居合わせる機会が多い	居酒屋など喫煙可能な場所で働いている	たばこ全く関わりがない
モラルを守る	2.71	2.5	2.41	2.58	2.79	2.29
	N.S	N.S	N.S	N.S	N.S	N.S
知的だ	2.48	2.3	2.1	2.35	2.08	1.95
	N.S	N.S	N.S	N.S	N.S	P<0.5
おおらかだ	2.61	2.21	2.28	2.33	2	1.89
	P<.01	N.S	N.S	N.S	N.S	P<.05
清潔感がある	2.03	1.95	1.88	2.09	2.04	1.71
	N.S	N.S	N.S	N.S	N.S	N.S
責任感がある	2.87	2.28	2.42	2.6	2.33	2.16
	P<.01	N.S	N.S	N.S	N.S	P<.05
吸っている姿がかっこいい	3.13	2.63	2.75	2.74	2.75	2.08
	P<.01	N.S	N.S	N.S	N.S	P<.01
頼もしい	2.74	2.19	2.19	2.4	2.29	2
	P<.01	N.S	N.S	N.S	N.S	N.S
社交的である	3.52	2.77	3.04	3.16	3.42	2.34
	P<.01	N.S	N.S	P<.05	P<.05	P<.01
ボーイッシュをする	3.81	3.56	3.64	3.58	3.33	3.13
	N.S	N.S	N.S	N.S	N.S	P<.05
健康的だ	1.58	1.42	1.41	1.53	1.38	1.29
	N.S	N.S	N.S	N.S	N.S	N.S
お金に余裕がある	2.81	2.79	3	2.98	2.71	2.84
	N.S	N.S	N.S	N.S	N.S	N.S
精神的な余裕がある	2.52	2.21	2.29	2.35	2.08	2.08
	N.S	N.S	N.S	N.S	N.S	N.S
我慢強い	2.45	1.98	2.12	2.14	2	1.87
	P<.01	N.S	N.S	N.S	N.S	N.S
たばこくさい	4.1	4.26	4.29	4.16	4	4.05
	N.S	N.S	N.S	N.S	N.S	N.S
時間を有効活用できる人だ	2.26	2.02	2.04	2.23	2	1.97
	N.S	N.S	N.S	N.S	N.S	N.S

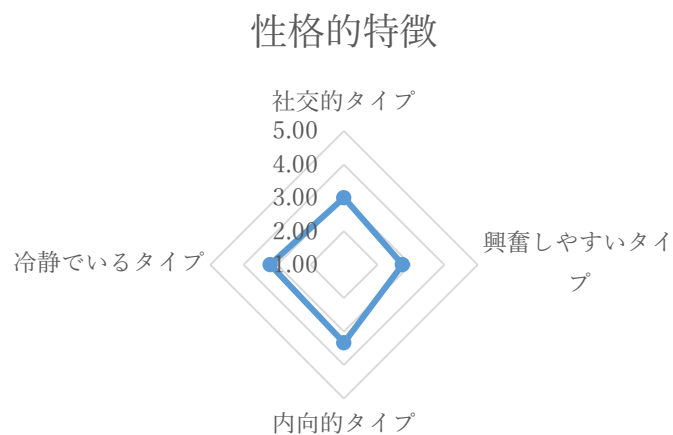
次に、喫煙者とたばこ双方のイメージを同一化している回答者の共通点を探る。

まず、喫煙者とたばこ双方のイメージを完全に同一化している 24 名の回答者の性格的特徴を見つめるため、単純集計を行った。その結果を図表-24 に示す。

「内向的タイプ」の平均値が 3.33、「冷静でいるタイプ」が 3.21 となり、若干高くなったが、4 項目に大きな平均値の差はなかった。

そのため、イメージを同一化している回答者に、性格的特徴で共通点はなかった。

図表-24 イメージを同一化している回答者の性格的特徴 (n=24)



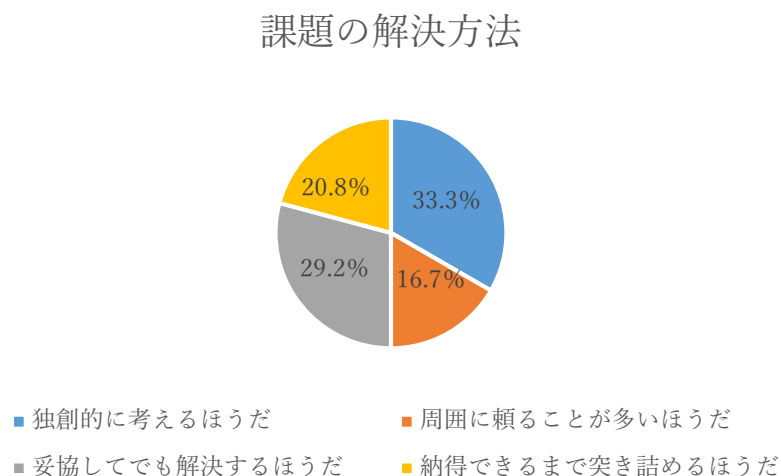
次に、24名の回答者の課題の解決方法に共通点があるかを検証するため、単純集計を行った。その結果を図表-25に示す。

その結果、「独創的に考えるほうだ」が33.3%、「周囲に頼ることが多いほうだ」が16.7%、「妥協してでも解決するほうだ」が29.2%、「納得できるまで突き詰めるほうだ」が20.8%であった。独創的に考える回答者の割合がわずかに高い結果となった。しかし、4項目で大きな差は見られなかった。

そのため、イメージを同一化する回答者は、独創的に考え課題を解決することが分かった。

また、イメージを同一化している回答者、同一化していない回答者の性格的特徴に有意な差があるかを見るため対応のないt検定を行ったが、有意な差は見られなかった。

図表-25 イメージを同一化する回答者の課題の解決方法 (n=24)



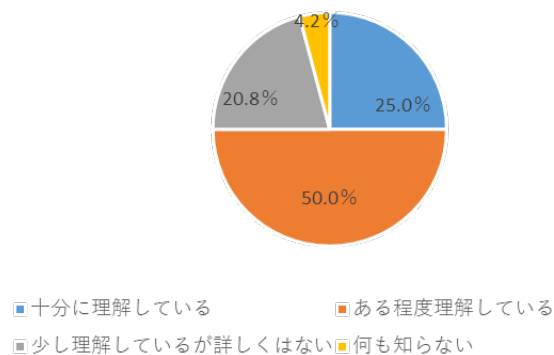
そして、24名者の回答者の共通点として、たばこの有害性への理解度を挙げ、単純集計を行った。その結果を図表-26に示す。

その結果、「十分に理解している」が25.0%、「ある程度理解している」が50.0%、「少し理解しているが詳しくはない」が20.8%、「何も知らない」が4.2%であった。ある程度理解している回答者が圧倒的に多かった。

そのため、イメージを同一化する回答者は、たばこの有害性について、ある程度理解している、と言える。このことから、たばこの有害性への理解度は、喫煙者とたばこのイメージを同一化している回答者の共通点とすることができる。

図表-26 イメージを同一化する回答者のたばこの有害性への理解度 (n=24)

たばこの有害性への理解度



以上、「性格的特徴」「課題の解決方法」「たばこの有害性への理解度」の3つを挙げ、たばこ
と喫煙者のイメージを同一化している回答者の共通点を検証した。性格的特徴に共通点はみら
れなかったものの、課題の解決方法とたばこの有害性への理解度については、共通点を発見す
ることができた。

そのため、「喫煙者とたばこへのイメージを同一化する人には、性格的特性、課題の解決方
法、たばこの有害性への理解度という観点で共通点がある」という仮説は支持された。

4. 考察

この調査ではたばこへのイメージがかなり悪く、また、喫煙者へのイメージも同一化されて
いた。つまり、喫煙者へ偏見の目が向けられているということになる。今回の調査は、たばこ
と喫煙者双方のイメージを比較し、その原因を探ることが目的であった。そして、喫煙者のイ
メージが悪かったことから、なぜそのような結果となったのか、原因として考えられるたばこ
との関わりの程度や喫煙経験など、環境や回答者を取り巻く現状が重要な点となる。

また、この調査では喫煙者とたばこのイメージが同一化されていた。そして、課題の解決方
法、たばこの有害性への理解度という点に回答者の共通点があった。課題の解決方法について
の質問項目は、錯誤相関を起こしやすい人の特徴が含まれている。そのため、喫煙者とたばこ
のイメージは同一化されているが、両者に因果関係はなく、イメージの同一化の要因として
は、錯誤相関が考えられる。

喫煙者は減少傾向にあるが、それでも多くの人々がたばこを愛用していることに変わりはない
と、誰もが過ごしやすい社会を形作っていくためには、偏見の目を取り払っていくべきだ。偏
見の要素として、今回の調査では現在のたばこと関わり、喫煙経験の有無という点が明らか
となった。分煙が進められ喫煙者が減少し続けている現在、たばこと関わりや喫煙をする機
会も減少していくと考えられる。そのため、今後、喫煙者への悪い印象はますます高まって
いくと予測できる。また、たばこの有害性が今後さらに明らかになる、広く知られるようになれ

ば、それに伴って喫煙者の印象も悪化するだろう。非常に残念ではあるが、喫煙者の印象は悪化してしまうかもしれない。最後の因子分析によって喫煙者のイメージが魅力的か、落ち着いているか、マナーが悪いかによって形成されていることが判明した。喫煙者は、偏見を取り除くためにも、この3要素の改善を行っていけば隔たりはなくなっていくのかもしれない。

喫煙者が嫌いであるほど喫煙者を友人にしたいくないという結果が出たため、喫煙の有無が人間関係にある程度影響するということがわかった。このことから、喫煙者と非喫煙者の溝は広がっていくことが懸念される。また、意識的なものではあるものの、分煙政策の推進加速にもこのような結果が影響しているのではないだろうか。家族や友人、知らない人、双方が目の前で喫煙をした際の感想に差があったことから、相手との関係性によって、喫煙に伴う人間関係への影響が緩和されると考えられる。偏見を受けながらも、他者との信頼関係を密にしていけることが、偏見を掻き潜る打開策となる。

喫煙者は悪いイメージを持たれており、人間関係にも影響することがわかったが、それではコミュニケーションに悪影響が出る。多くの非喫煙者がたばこの関わりを持たばこの現状も打開できるが、それは現実的ではない。そのため、分煙への取り組みによってただ一方的に喫煙者を排除するのではなく、居場所がなくなる喫煙者への配慮も行い、過ごしやすい社会が作られていくことを願う。

参考文献

厚生労働省 受動喫煙対策

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000189195.html>

国立がん研究センター たばこがん

https://ganjoho.jp/public/pre_scr/cause_prevention/smoking/tobacco02.html

厚生省の最新たばこ情報

<http://www.health-net.or.jp/tobacco/product/pd090000.html>

受動喫煙に関する都民の意識調査 東京都福祉保健局

https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/kensui/kitsuen/sanko/citizen/files/27tomin_all.pdf

Bell Curve 統計Web 錯誤相関

<https://bellcurve.jp/statistics/blog/14276.html>

BELCY ステレオタイプの例 10 選

<https://belcy.jp/63381>